

ワークショップ概要

ゲートウェイ部会

#南長浜地域のこれからの姿を描く

#南長浜地域のこれからの姿を描く

ゲートウェイ部会



2050年に目指す方

- 市域最南部に位置する立地特性や交通利便性を活かして、人や資本が集まるハブ機能を整備
 - ・琵琶湖を生かし、地域内外の人々にアクティビティとヒーリングを提供する



ターゲットプレイヤー

- 地域外の観光客、関係人、レイクアクティビティを希望する人
 - 30-60代
 - 生活の中に農を求める方
 - ゆったりした生活を希望

ベースゾーン

主な取組（案）

社会的インパクト

内外交流ゾーン
／SIC活用ゾーン

完全モビリティのハブ機能
→ 長浜駅では不十分
高速度路側の導入

- ・道の駅
- ・モビリティターミナル
- ・アグリコモンズビジネス
- ・統合的観光案内所

内外交流ゾーン

- ・広大なイベントパーク整備
建物ではなく、ステージ？
- ・アグリの成果イベントも可能
- ・駐車場

地域内外が交流し、楽しめる
アクティビティ&ブレイク

リラクスパークゾーン

- ・道の公園
- ・レイクスポーツ
- ・琵琶湖学習体験施設
- ・飲食店

琵琶湖のアクティビティ、ヒーリング、ブレイクを享受できる
>> 魅力的なランドマークに
公園との棲み分けが必要

ライフスタイルゾーン①

自動運転

- ・生活利便性の向上
- ・移動困難者が住みやすいまち

交流人口から関係人口から2拠点居住から定住人口へ

2050年に目指す方向性

- ・レイクアクティビティの中心地
産業やイノベーションが生まれてくる
- ・田村駅周辺にいくための目的地、留まる場所
- > 内からも外からも
地域内の人がいくためのモチベーション=目的：買う、交流する、

リラクスパークゾーン

公園との棲み分けが必要

ゲートウェイ部会



2050年に目指す方向

- 市域最南部に位置する立地特性や交通利便性を活かして、人や資本が集まるハブ機能を整備
- 「アグリ(農)」をテーマにした交流促進ー地域基盤構築ービジネス創生の流れの確立
- 南長浜地区のシンボリックな景観である田園風景の保全
 - ・ライフスタイルの方でカバーしていく？
 - >> 地域と人を繋げる>> 新たな住民の居場所づくり、交流の場



ターゲットプレイヤー

- 地域在住者（先住者、転入者）
- 京阪神・中京エリアからの来訪者
- 通学者（大学・高校）
- 通勤者（産業ゾーン従業員）

マスターゾーン

主な取組（案）

社会的インパクト

内外交流ゾーン

アグリコミュニケーション事業
・ながはま菜園する？パーク

地域在住者間（特に先住者と転入者）、在住者と通学通勤者間のコミュニケーションの定常化。
→ 個人レベルの仲間意識の醸成

内外交流ゾーン

アグリコモンズ事業
・田村辻町公園の市民農園化

地域在住者（特に先住者と転入者）と通学通勤者による小さな交流拠点の設置。
→ まちの担い手としてのシビックプライドの醸成

ライフスタイルゾーン
① or ②

アグリコミュニティビジネス事業
・農業公園の設置

田園風景を活かした健康と食をテーマにしたコミュニティビジネス拠点の設置。
→ 外からの来訪者の関係人口化
→ 大学・高校生の働く場の創出（転出抑制）
→ スマート農業実験施設としての活用
→ 農業の事業価値の維持向上と継承者の確保

移住者の視点

= 交通が不便

外から来る人の目線での「交通」、「交通ハブ」

<< 今の自治会じゃない自治のあり方が必要 >>

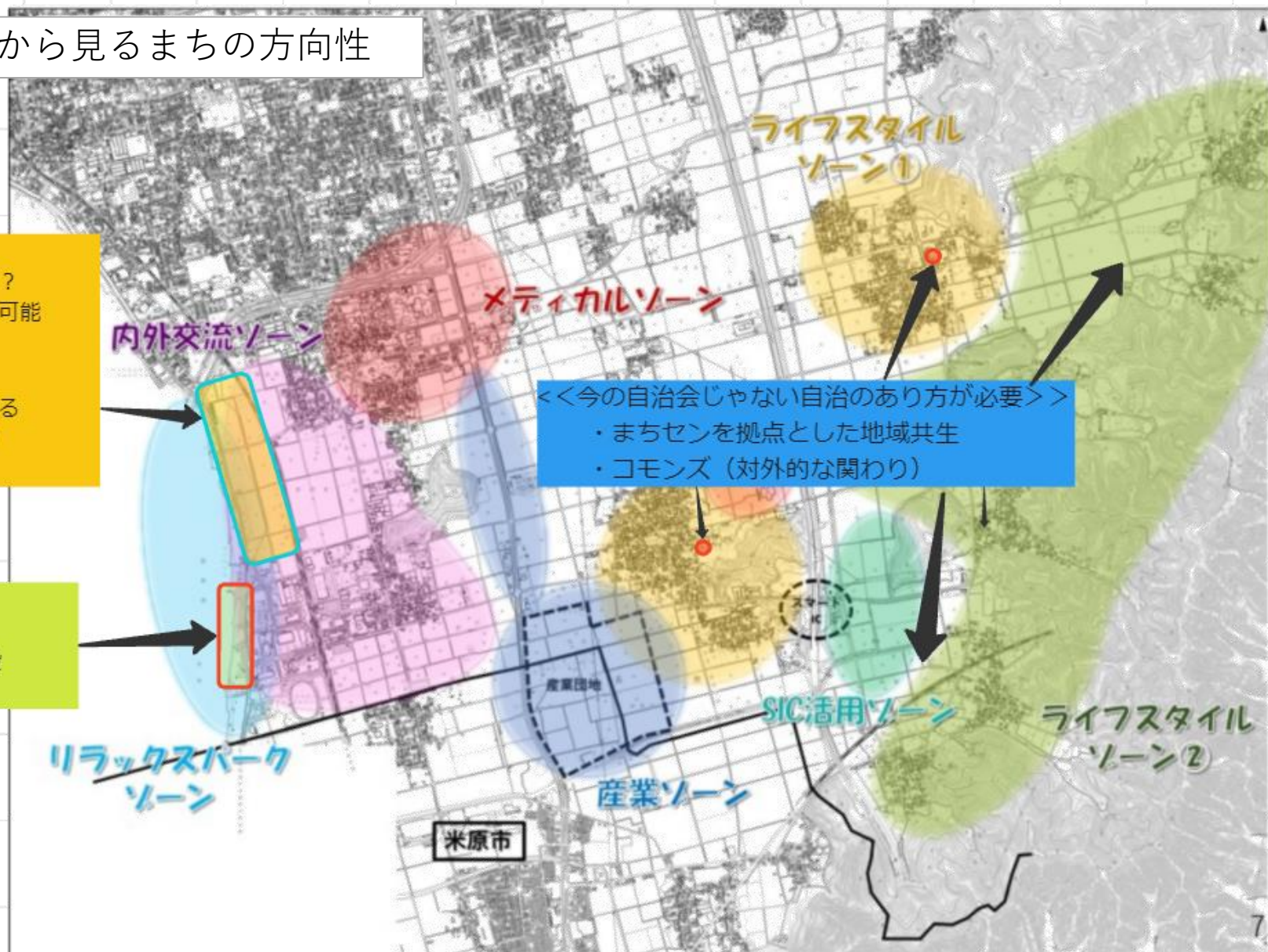
コモンズ = 対外的なコミュニティのハブ & 交通のハブ

ゾーンから見るまちの方向性

- ・ 広大なイベントパーク
建物ではなく、ステージ？
- ・ アグリの成果イベントも可能
- ・ 駐車場

【インパクト】
地域内外が交流し、楽しめる
アクティビティ&ブレイク

- ・ 渚の交番
レイクスポーツ
びわ湖学習体験施設
飲食店



<<今の自治会じゃない自治のあり方が必要>>

- ・ まちセンを拠点とした地域共生
- ・ コモンズ（対外的な関わり）

南長浜地域のこれからの姿を描く

インキュベーション部会



2050年に目指す方

南長浜にリソースのある「食・農・健康」領域のビジネスや産業のインキュベーションを推進

食（発酵から健康を救う）
街
大規模農業の街

地域内の企業・人（
大学と高校）と外部からの
人・コトが交流して、事業
が生まれ続ける

関係人口（特に高校や大学
生）などの結びつきが生まれ、
継続的サイクルが生まれる



ターゲットプレイヤー

向井太郎19歳

川上楓40歳

青木京子70歳

柴拓美32歳

ベースゾーン

主な取組（案）

社会的インパクト

内外交流ゾーン

0→1→10（最初だけ・コミュニティ作りも）
バイオ大学などの既存施設
を使った地域内外の交流促進

・プロトタイピングに既存施設（バイオ大学等）を活用することで、相対的に
安価にインキュベーションハブ支援をすることができる。
・プロトタイピングに既存施設（バイオ大学等）を活用することで、事業者と
大学とが共同研究しやすくなる。

0→1→10
フード・ヘルスケアインキュ
ベーションハブ+経済圏づく
りでの交流促進
（インキュベーションハブは
実証的な目的で飲食提供も）
ハード・ソフトウェアの
両面両輪で進める
（インキュベーションハブに投資
するが、産業団地に投資するが、
その間には連携する）

・インキュベーションハブを作ること、市内の事業者・人が、市外のアイデア・ビジネスに触れて新たな発想を得て、
自分のビジネスに生かすことができる。場合によっては新たな事業に繋げることができる。
・インキュベーションハブを作ること、市外の企業・人が、長浜の地で自分のビジネスアイデアを検証し、プロト
タイプ化することができる。
・宿泊施設を用意することで、長浜で何かを実施したい人達に市内・南長浜に滞在して強力な関係人口になってもらうこ
とができる。
・インキュベーションハブで、プロトタイプ的に飲食も提供することで検証。結果的に、人々の交流の場にもなり、
豊かさを提供（特に、仕事後の交流の場が少ないエリアのため、ここが人が集まる場になるとよい）ライフスタイル部会
とも連携

産業ゾーン

10→100→1000
YAMMERや発酵企業
など地方基盤事業と
の連携支援

・地方基盤事業と連携することで、地域にオープンな産業団地となり、地域内の
様々な活動の循環を生み出すことができる。

農業や医療などに関
わりのある広い顧客
参加型にする

・市内の顧客が参加できる形態にすることで、産業団地の地域貢献を可能とする
。

次世代モビリティの
実証と地域の人のニ
ーズ抽出

・周辺の土地（ex.道路）や湖、地域の人の声を活用することで、地域一体での
次世代モビリティの実証実験場となることができる。

メディカルゾーン

インキュベーションハブで生
まれた健康食などをプロト
タイプ的に（リビングラボ的
に）提供。かつニーズの聴取

・様々なニーズに応じた健康食が開発される。

プロトタイプ的に
食を提供する場（
のひとつ）

人口規模は、
研究系では大
きく増えない

共同社会とかで
平日経済を回し
、内外交流ゾ
ンで週末経済な
ど

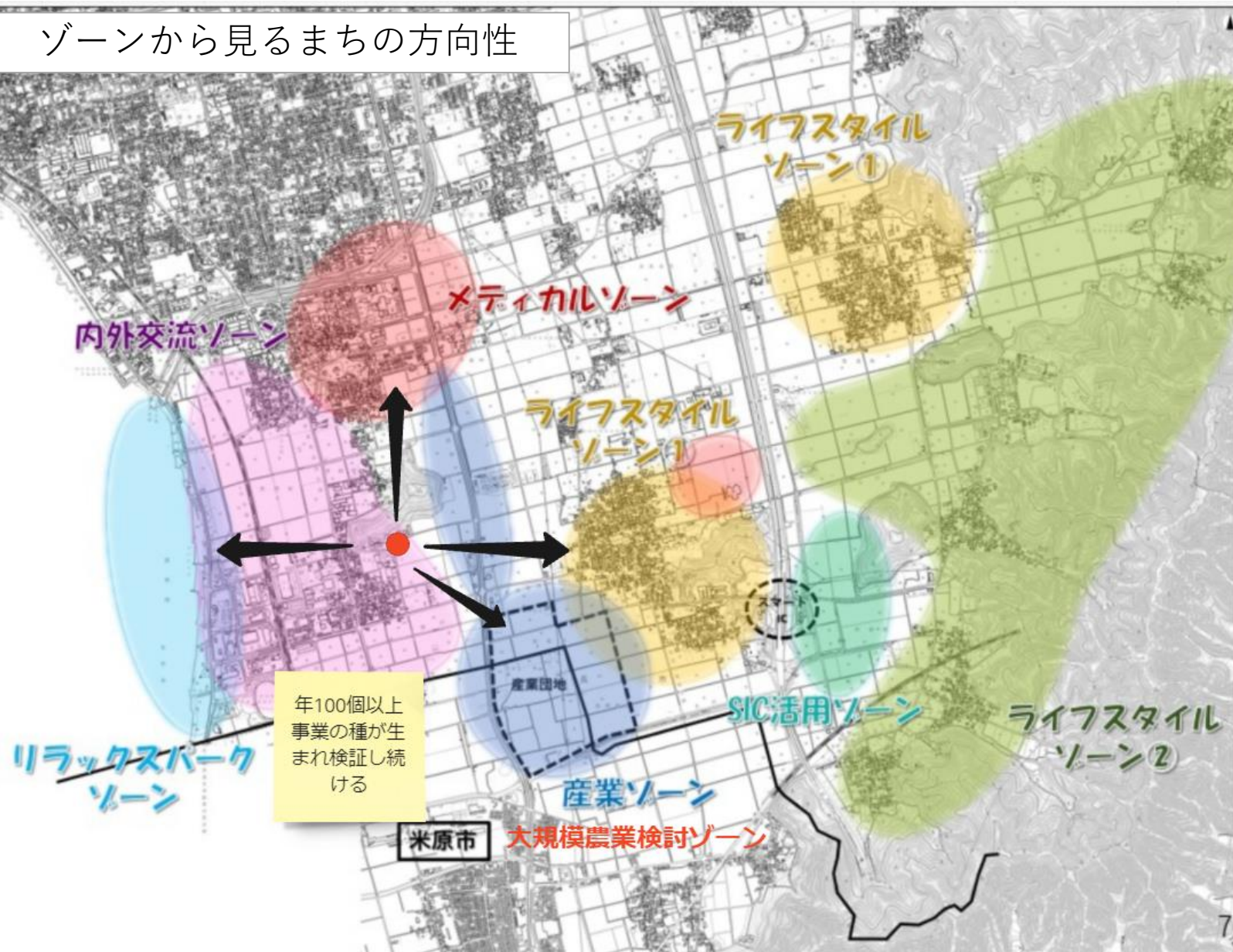
<既存事業>

- ・発酵食品
 - 紺ずし（トクヤマ酢）
 - お酒（AMAGANウイスキー、長浜浪漫ビール、七本槍）
- ・農業
 - ヤンマー
 - ウォータースポーツ
- 健康
 - ・千年灸
- <関連者>
 - ・バイオ最先端技術

南長浜を選ぶ理由

- ・自然系産物を利用可能なため
- ・面白い事業や研究を紹介できるため
- ・環境に負荷が低い生活や事業ができる（自然系の起業であればPR
のひとつになる）
 - 都会から鉄道で来られる。地域内で発電したエネルギーを使用で
きる
- ・バイオ大学の学生と新製品・サービスのプレストができる
- ・産業団地の企業との関連（鶏と卵ではあるものの）

ゾーンから見るまちの方向性



外からよ
んでくる

事業の種が生
まれ続ける

既存事業と外
からの事業が
交流

南長浜地域のこれからの姿を描く

ライフスタイル部会



2050年に目指す方

- ・ 地域の子育てファミリーから高齢者、関係人口来訪者まで多様な人々がウェルビーイングでサステナブルなライフスタイルが送れる先進的な生活の場となる
- ・ この先進的な生活の場の子育てのしやすさや、仕事のしやすさ、高齢期の生活のしやすさを求めて内外から人が集うようになる。
- ・ 地域で生産したものが地域で消費される域内経済が盛り上がる



ターゲットプレイヤー

- 子育てファミリー
- ・ 高齢者
- ・ 関係人口（二拠点居住者等）
- ・ 工場就労者（市街から働きに来る人）

ベースゾーン

主な取組（案）

社会的インパクト

ライフスタイルゾーン①

・ ライフスタイルストア

- ・ まちづくりセンターの横に設置されたコミュニティストア
- ・ 地元の食材や加工食品を購入できる街の食料品店
- ・ 地元食材を目当てに観光客も訪れる
- ・ 人々が集うカフェも併設
- ・ 量り売りで販売し、ゼロ・ウェイストを推進
- ・ ゴミや使い終わったものを地域で回収する仕組みを整備
- ・ 地域の人が店員であり顧客である
- ・ 夜も利用できる無人販売機能もある

ライフスタイルゾーン①

・ 地域温浴施設

- ・ 神田SICに併設された温浴施設
- ・ 地域の人と高速道路利用者が利用可能
- ・ 近隣の医療施設利用者にも開かれた施設になる
- ・ 例：バーデ浅井

ライフスタイルゾーン①と 産業ゾーンの接点

・ 地域食堂+道の駅

- ・ 産業ゾーンとライフスタイルゾーン①の間の場所に設置された地域のための食堂+道の駅
- ・ ライフスタイルゾーン①の日常的な食事の場所
- ・ 産業ゾーンで働いている人の共同社食としても機能

ライフスタイルゾーン②

・ コミュニティモビリティ（人 流、物流）

- ・ 地域住民の通学や近隣施設への移動をアシストするライドシェアモビリティ
- ・ 物やサービスが地域に届く多目的モビリティサービス

・ 開かれた農業高校

- ・ 観光施設として農業高校の一部を開放する
- ・ 小中学校の生徒の職業体験場所としても活用する
- ・ 例：北海道大学
- ・ 社会科見学、ビジネス研修目的で学生起点・企画の食堂運営など

メディカルゾーン

・ ネイチャーウェルビーイング パーク

- ・ 自然地形をいかしたウェルビーイングパーク構想
- ・ 神田山、田村山、足柄山へのトレッキングルート整備
- ・ 長浜新川を利用したウォーキングルート整備
- ・ 介護施設入居の高齢者から、子どもまで様々な世代に開かれた場所になる

内外交流ゾーン/ リラックスパークゾーン

・ 田村山カフェ

- ・ びわ湖の眺望が素晴らしいカフェ
- ・ 食材を田村駅周辺からドローンデリバリー
- ・ 例：びわ湖テラス

・ コワーキングスペース（教習 所跡地利用）

- ・ びわ湖沿いのビルをリノベーションし、コワーキングスペースを整備
- ・ 二拠点居住、関係人口ワーカーが活用

SIC活用ゾーン

・ コワーキングスペース（SIC、 温浴施設併設）

- ・ SICからダイレクトでアクセスできるコワーキングスペース
- ・ 温浴施設やレストランなどが徒歩圏で利用可能

ゾーンから見るまちの方向性

